Y994-J2387
1200700977891

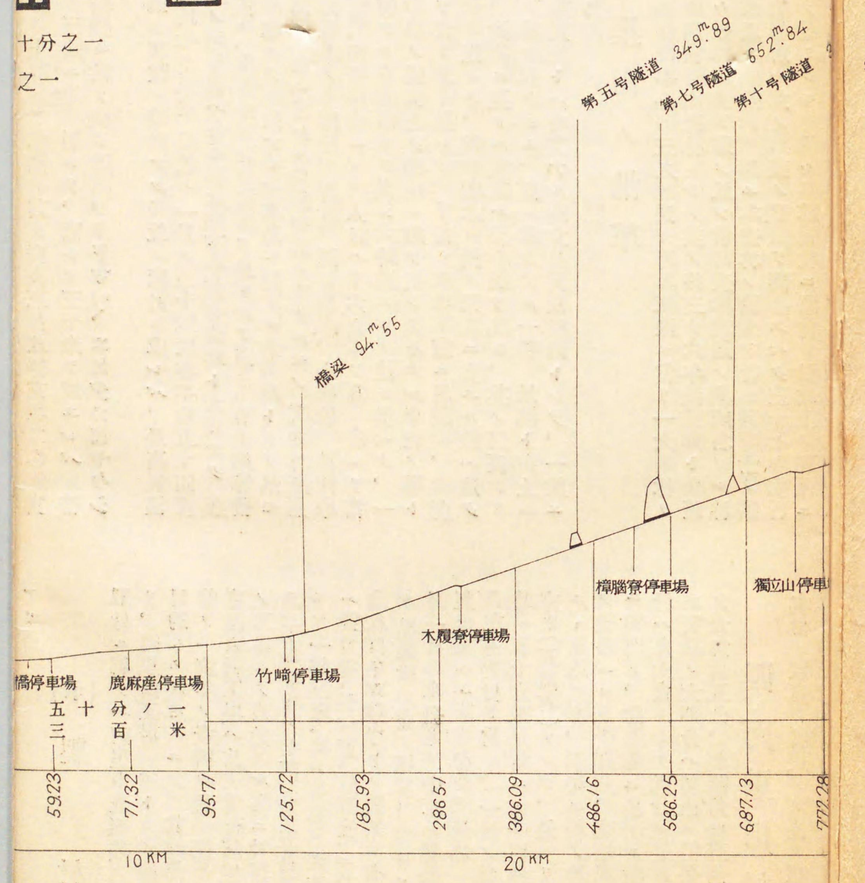
阿里山事業の概況

臺湾總督府營林

Y994-J2387

面　圖

十分之一
之一



Y994
J2387

阿里山鐵道粁程及賃金表

（便乘料金ヲ含ム）

粁表　賃金表　（上段二等）　（下段三等）

78.6	76.2	71.9	66.6	60.5	55.1	50.7	45.4	40.3	34.6	30.8	27.2	23.1	18.8	14.2	10.8	7.4	1.6	嘉義		
77.0	74.6	70.3	65.0	58.9	53.5	49.1	43.8	38.7	33.0	29.2	25.6	21.5	17.2	12.6	9.2	5.8	北門		09 05	
71.2	68.8	64.5	59.2	53.1	47.7	43.3	38.0	32.9	27.2	23.4	19.8	15.7	11.4	6.8	3.4	碧潭		25 15	32 19	
67.8	65.4	61.1	55.8	49.7	44.3	39.9	34.6	29.5	23.8	20.0	16.4	12.3	8.0	3.4	鹿麻産		15 09	40 23	47 27	
64.4	62.0	57.7	52.4	46.3	40.9	36.5	31.2	26.1	20.4	16.6	13.0	8.9	4.6	竹崎		15 09	30 17	55 32	62 36	
59.8	57.4	53.1	47.8	41.7	36.3	31.9	26.6	21.5	15.8	12.0	8.4	4.3	木履寮		40 20	55 29	70 37	95 52	1.02 56	
55.5	53.1	48.8	43.5	37.4	32.0	27.6	22.3	17.2	11.5	7.7	4.1	樟腦寮		38 19	78 39	93 48	1.08 56	1.33 71	1.40 75	
51.4	49.0	44.7	39.4	33.3	27.9	23.5	18.2	13.1	7.4	3.6	獨立山		36 18	74 37	1.12 56	1.27 65	1.42 73	1.67 88	1.74 92	
47.8	45.4	41.1	35.8	29.7	24.3	19.9	14.6	9.5	3.8	單圓寮		32 16	68 34	1.04 52	1.44 72	1.59 81	1.74 89	1.99 1.04	2.06 1.08	
44.0	41.6	37.7	32.0	25.9	20.5	16.1	10.8	5.7	交力坪		34 17	64 32	1.00 50	1.36 68	1.76 88	1.91 97	2.06 1.05	2.31 1.20	2.38 1.24	
38.3	35.9	31.6	26.3	20.2	14.8	10.4	5.1	水社寮		50 25	82 41	1.14 57	1.48 74	1.86 93	2.26 1.13	2.41 1.22	2.56 1.30	2.81 1.45	2.88 1.49	
33.2	30.8	26.5	21.2	15.1	9.7	5.3	達邁湖		44 22	94 47	1.26 63	1.58 79	1.92 96	2.30 1.15	2.70 1.35	2.85 1.44	3.00 1.52	3.25 1.67	3.32 1.71	
27.9	25.5	21.2	15.9	9.8	4.4	哆囉嗎		46 23	90 45	1.40 70	1.72 86	2.04 1.02	2.38 1.19	2.76 1.38	3.14 1.57	3.29 1.66	3.44 1.74	3.69 1.89	3.76 1.93	
23.5	21.1	16.8	11.5	5.4	十字路		38 19	84 42	1.28 64	1.78 89	2.10 1.05	2.40 1.20	2.76 1.38	3.14 1.57	3.52 1.76	3.67 1.85	3.82 1.93	4.07 2.08	4.14 2.12	
18.1	15.7	11.4	6.1	平遠郡		48 24	86 43	1.30 65	1.74 87	2.24 1.12	2.56 1.28	2.88 1.44	3.22 1.61	3.60 1.80	4.00 2.00	4.15 2.09	4.30 2.17	4.55 2.32	4.62 2.36	
12.0	9.6	5.3	二萬平		54 27	1.00 50	1.38 69	1.84 92	2.28 1.14	2.76 1.38	3.08 1.54	3.40 1.70	3.76 1.88	4.12 2.06	4.52 2.26	4.67 2.35	4.82 2.43	5.07 2.58	5.14 2.62	
6.7	4.3	阿里山		46 23	1.00 50	1.46 73	1.84 92	2.28 1.14	2.72 1.36	3.26 1.63	3.54 1.77	3.86 1.93	4.20 2.10	4.58 2.29	4.96 2.49	5.13 2.58	5.28 2.66	5.53 2.81	5.60 2.85	
2.4	塔山		38 19	84 42	1.36 68	1.82 91	2.20 1.10	2.66 1.33	3.10 1.55	3.58 1.79	3.92 1.96	4.22 2.11	4.58 2.29	4.94 2.47	5.34 2.67	5.49 2.76	5.64 2.84	5.89 2.99	5.96 3.03	
眼月		22 11	58 29	1.04 52	1.56 78	2.04 1.02	2.40 1.20	2.86 1.43	3.30 1.65	3.80 1.90	4.12 2.06	4.44 2.22	4.78 2.39	5.16 2.58	5.54 2.77	5.69 2.86	5.84 2.94	6.09 3.09	6.16 3.13	

附記、四歳未滿ノ者ハ無賃トシ、四歳以上十二歳未滿ノ者ノ運賃ハ各等ヲ通ジ、前記賃金ノ半額トス、團體割引ハ二十人以上、三割引四十人以上、四割引六十人以上五割引トス。

1200700977891
國立國會圖書館藏書
I種
W

阿里山事業ノ概況

一、阿里山ノ概念

阿里山ハ嘉義市ヲ距ル東方七十二粁北緯二十三度半北回歸線上ニ位置シ、臺灣背梁山脈ノ中樞新高山ノ西山ニ連ル一支脈ニシテ、其ノ最高峰ハ海拔二千九百五米ノ石水山ナリ、通常阿里山森林ト稱スルハ、營林所ニ於テ經營シツヽアル事業地一帶ノ總稱ニシテ、地質ハ第三紀水成岩ヨリ成リ標高千二百米乃至二千九百米ノ間ニ介在ス、故ニ傾斜急峻ノ箇所尠ナカラズト雖モ、土壤一體ニ深ク且ツ甚ダ豐沃ナルヲ以テ能ク樹木ヲ生育ス、阿里山森林ガ豐富ナル樹種ト老大ノ成長トヲ保チ得タル所以ハ氣溫ト濕度トノ調和ヲ得、且ツ土地ノ豐沃ナルト暴風ノ皆無トニ因リ林木ヲシテ、其ノ天性ニ任セ極度ノ發育ヲ遂ゲシメタルモノナリ。

由來植物ハ氣溫ノ寒暖ニ因ツテ各其ノ生育スル處ノ種類ヲ異ニス我臺灣ニ於ケル植物分布ノ狀態ハ大體ニ於テ熱帶、暖帶、溫帶、寒帶ノ四ニ區分スル事ヲ得、今阿里山ヲ中心トシテ林木發育ノ狀態ヲ觀ルニ海拔七百六十米、即チ獨立山ヨリ以下ノ地域ハ熱帶林ニ屬シ、龍眼樹、榕樹、想思樹、キワタ、及イヌビワ等旺ンニ繁茂シ七百六十米以上一千七百米恰モ平遮那附近ニ至ル間ハ暖帶林ニ含マレ、櫧(カシ)、柯(ナラ)仔、楠仔(タブ)、烏心石(オガタマ)等ノ常綠濶葉樹能ク自然ノ生育ヲ遂グ、夫ヨリ登ルニ從ヒ常綠濶葉樹ノ數ヲ減シ次第ニ針葉樹帶トナル。

一千七百米乃至三千米ノ間ハ溫帶林ノ圈內ニシテ扁柏、紅檜、姬子松、亞杉、(臺灣杉)及栂ノ鄕土ナリ、即チ阿里山作業地ハ此ノ溫帶林ノ全部ト暖帶林ノ上部トヲ包擁シ其ノ廣袤東西八粁南北二〇粁實ニ一萬二千百三十三陌(ヘクタール)ニ達シ居レリ、而シテ三千米ヲ越ユレバ寒帶林ノ區域ニ入リ樹種モ從テ變ジ唐檜、**トドマツ、ニヒタカビヤクシン**等專ラ生育ス。

阿里山ハ四季ヲ通ジ寒暖ノ差尠ナク最近ノ統計ニ依レバ、最高氣溫ハ七月ニシテ、華氏七十五度、最低ハ一月ノ三十五度年平均五十四度內外ナリ、故ニ夏ノ阿里山ハ恰モ栃木縣下中禪寺湖畔ト大差ナク、冬ハ鹿兒島邊ニ酷似ス、又年中蚊族ノ棲息ヲ見ザルヲ以テ、風土病等發生セズ、保健狀態極メテ優良ナレバ本島ニ於ケル避暑地トシテ最モ好適地ナリ。現今阿里山ニ於ケル施設中其ノ主ナルモノハ、營林所嘉義出張所阿里山派出所ノ外阿里山神社、阿里山寺、小學校、林間學校、警察官吏駐在所、郵便局等ニシテ人口ハ千六百人ヲ算シ居レリ當阿里山ハ汽車ノ便アリ嘉義市ヨリ僅カ六時間ニシテ達シ得ベク、一度汽車ニ乘レバ沿線ノ風物悉ク獨特ノ趣ヲ呈シ轟々タル車輪ノ響其ニ山ヲ繞リ谿ヲ渡リ愈々登レバ、千古ノ森林車窓ニ展開シ、陰蔚トシテ自然ノ生育ヲ逞フス、就中老木巨樹ノ天表ニ聳ユル樣ハ遠ク神代ヲ想ハシメ、樹間ニ盈ツル靈氣ハ又心血ヲ洗ヒ、其ノ崇高ナル恰モ仙境ニ遊ブノ感ヲ起サシム、此ノ雄大ナル一帶ノ景觀ト山上ニ於ケル近代的林業施設トハ有力ナル國立公園候補地トシテ、一般ニ囑望セラレ居レリ。

二、阿里山ノ沿革

明治三十二年臺南縣技手小池三九郎氏ガ蕃界探險ニ當リ一大密林ヲ發見セリ、是ゾ所謂阿里山森林ニシテ其ノ後三十六年鐵道部ト殖產局トニ於テ、夫々分擔調査ヲ進メ且ツ當時森林利用ノ權威者タル林學博士河合鈰太郎氏ニ依囑シ、具ニ本森林ノ踏査ヲ行ヒ同博士ノ調査發表ト共ニ、總督府ハ此ノ無盡ノ寶庫ヲ開拓スベク三十七年官行研伐事業ノ計劃ヲ試ミシモ、偶々日露戰役ニ際會シ財政上ノ關係ニ依リ成案ヲ得ルニ至ラズ、尙近キ將來ニモ企業ノ見込立タザリシガ、阿里山ノ經營ハ本島啓發上忽諸ニ附シ難ク、三十九年二月總督府ト合名會社藤田組トノ間ニ阿里山森林經營ニ關スル契約成ルニ及ビ、同社ハ木材搬出ノ爲メ嘉義ヨリ二萬平ニ至ル森林鐵道ノ敷設ニ着手セリ、然ルニ四十年四月ニ至リ鐵道ノ測量竝森林ノ調査等完成ヲ告ゲ、其ノ結果同社ハ阿里山經營ノミニテハ、將來企業ノ成功期シ難キヲ虞レ、四十一年一月遂ニ事業ノ中止ヲ發表スルニ至リタリ。茲ニ於テ總督府ハ愈々官營ノ必要ヲ認メ、第二十五議會ニ其ノ豫算ヲ提出セシモ調査不充分ノ故ヲ以テ否決トナリ、更ニ二十六議會ニ之ガ修正案ヲ提出セリ、卽チ藤田組補償金百二十萬圓創業費三百七十萬圓計四百九十萬圓トシテ豫算ヲ可決セラレ、茲ニ初メテ官業案成リ、四十三年四月十六日阿里山作業所官制ノ發布ヲ見ルニ至レリ爾來各方面ノ施設着々進行シ大正元年末ニハ嘉義二萬平間六六、六粁ノ鐵道工事完成ヲ遂ゲ研伐事業ノ實行ニ着手セリ當時藤田組ノ調査ニ依ル森林ノ內容ハ概ネ次ノ如シ（勿論今日ノ阿里山森林ノ全部ヲ包含セルモノニアラズ）

面積一千百陌蓄積針葉樹三百萬立米、濶葉樹三百十萬立米合計六百十萬立米ノ多キニ達シテ居ル、尙又藤田組ヨリ承繼後ニ於ケル鐵道其ノ他諸施設ニ要シタル創業費ヲ揭クレバ

年度別	科目別	阿里山森林經營費	阿里山作業所補充費	災害費	計	記事
明治四十三年度		一三三三七七四一三〇	—	—	一三三三七七四一三〇	
同 四十四年度		一九七五九五五二六〇	—	二四九八四〇五〇	二二三五八五九三二〇	藤田組補償額ハ明治四十三年度各四十四年度各計百六十萬圓ナリ
同 四十五年度		一二〇三五八七七五〇	一九二〇八八〇六〇	三〇五一〇一九二〇	一九九九七七七三三〇	
大正元年度		九五三五六六〇	一九八一〇二六一〇	二四五五七八八三〇	五三九一三七一一〇〇	
同 二年度		四八九七六七二八〇〇	三八九二九〇六七〇	八〇〇五四〇六〇〇	六〇八七五八二七〇	
合計						

三、阿里山ノ販賣

木材ノ販賣ハ特賣ノ方法ヲ採用シ常ニ顧客ノ利便ヲ圖ルト共ニ、市況ノ歸趨ヲ胴察シテ需要ノ喚起ヲ計リ、阿里山材ノ聲價向上ニ專念シツヽアリ、樹種ハ扁柏紅檜ヲ主トシテ亞杉、栂、松、之ニ亞グ何レモ丸太材又ハ製材品ト爲シ販賣シ居レルガ、濶葉樹ニ在リテハ現今販路尠ク僅カニ鐵道部ニ於テ客車ノ材料トシテ使用セラレ居ルニ過ギズ、然レ共扁柏紅檜ノ如キハ其ノ材質ニ著シキ特長ヲ有シ、殊ニ長大ナル美材ノ點ニ至リテハ、遠ク及ブモノナキヲ以テ、本島內ハ勿論內地市場ニ於テモ頗ル有利ノ地歩ヲ占ム、現ニ有名ナル明治神宮ノ大華表竝ニ檜原神宮ノ御華表モ倶ニ其ノ全部阿里山材ヲ以テ建立セラレ、其ノ他桃山御陵、乃木神社、筥崎八幡宮乃至ハ東福寺等ノ御造營ヲ始メトシテ、今ヤ各地ノ神祇佛閣等壯麗ナル建築ハ普ク供給ノ依賴ヲ受ケ居ル狀況ニ在リ、又扁柏ハ「**チーク**」材ノ代用品トシテ造船材ニ賞用セラレ、現ニ帝國艦隊ノ精鋭ナル軍艦長門ノ甲板ハ全部阿里山扁柏ヲ採用セラレシヲ始メ、帝國軍艦用材トシテ多大ノ需要アリ。如斯阿里山材ノ眞價ハ早クヨリ一般ニ認メラレ、爲メニ年來ノ成績亦順調ナリ卽チ創業以來竝ニ昭和五年度中ノ木材處分高ヲ示セバ次ノ如シ。

昭和五年度處分調　自大正元年至昭和五年

區分	丸太及製品			立木及屑材		計
臺灣別	材積	金額	金額	材積	金額	金額
內臺	立米 四六八六三五	円 一九七四九一六	円 五一八〇五五			円 二〇一三二九七一
內島	一四二一四〇	七七四九九六〇	—			七七四九九六〇
內地						
計	六二〇九七五	二七九六二八七六	五一八〇五五			二七九九七九九二一

立米ニ達シ居レリ、又木材輸送ノ傍ラ、嘉義、竹崎間十四粁ハ一般貨客ノ運輸營業ヲ兼ネ、更ニ竹崎以東ノ幹線(山線)及林內線ノ一部ニ於テモ一般貨物ノ不定時運輸竝ニ旅客ノ便乘扱ヲ爲シツヽアリ、尙上リ列車ノ際ハ客車ヲ機關車ノ前部ニ連結スル爲メ恰モ電車ニ乘リタル感アリテ、實ニ本邦唯一ノ登山鐵道トシテ洽ク人口ニ膾炙セラル、列車ノ運轉速度ハ上リ十三粁(八哩)下リ一四、五粁(九哩)ニシテ一日四回乃至五回ヲ運轉シ、內一回ハ便乘列車トシテ旅客ノ便乘ヲ許可シツヽアリ、近年ハ阿里山及新高方面視察ノ爲メ登山スル者頓ニ增加シ、昭和五年中ニハ六千餘名ノ多キニ達シ、尙五年度ニ於ケル鐵道營業收入モ十三萬五千圓ヲ算シ居レリ

(二) 貯木

阿里山鐵道ニ依リ搬出セラレタル丸太ハ嘉義貯木場ニ到着ト同時ニ夫々檢尺ヲ施シ、更ニ材質ニ依リ品等(格付)區分ヲ爲シ相當ノ記號ヲ打チ込ミ愈々商品トシテ貯木場ニ保管ス。

貯木場ニ於ケル貯材ノ方法トシテハ、水中ニ貯フルヲ普通トスルモ、水底ニ沈ム材木ハ之ヲ陸上ニ堆積シ必要ニ應ジ搬出ス、而シテ貯木池ハ其ノ貯水面積五萬四千三百十四平米ヲ算シ、二萬立米ノ貯材能力アリ、尙陸上ハ一萬一千四十一平米アリテ、一萬四千四百立米ヲ貯材シ得ベシ、設備トシテハ極メテ便利ナル移動式鐵索卷立機ヲ使用シ居レルガ、此ノ卷立機ハ左右ニ約百五十八米移動可能ノ二箇ノ對立セル櫓ヨリ成リ、櫓ノ徑間九十六米ニ及ビ、荷重最大十六噸迄ノ材木ヲ自由ニ操縱シ得ル裝置ナリ、又別ニ蒸氣起重機(三噸)ノ作業ニ依ツテ、山地ヨリ到着貨車ノ丸太ヲ池中ニ容易ニ荷卸シ得ル裝置アリ。

(ホ) 製材

製材ニ就テハ阿里山及嘉義ノ二箇所ニ工場ヲ設置シ製材シツヽアリ、阿里山工場ハ主トシテ所內工事用材ノ供給及山地廢材ノ利用ヲ目的トスルモノニテ、其設備モ僅カニ鋸機三臺ノ小規模ニ過ギズ、從テ一箇年ノ資料材積モ三千九百立米見當ナリ。

嘉義製材工場ハ其ノ當初阿里山ヨリ搬出セラル、長大材ノ總テヲ此ノ工場ニテ製材スル事ニ計劃セラレタル爲メ、規模モ頗ル宏大ニシテ、工場敷地ハ七萬二千五百平米ニ及ビ、建物ハ延七千六百平米ヲ有スル一部三階、他ハ全部二階建ノ總鐵筋**コンクリート**造ニシテ、構內ハ動力室、製材室、仕譯室、二分ル、動力ハ自家發電ニヨリ其ノ最高能力八百**キロワット**ノ裝置ヲ有スルモ最近製材作業ノ方針ヲ變更シタル結果動力費ノ採算上他ヨリ供給ヲ受クルヲ有利トシ、昭和六年九月一日以來發電ヲ中止シ嘉義電燈株式會社ヨリ供給ヲ受ケ居レリ。

製材室ニハ縱挽帶鋸、長鋸、圓鋸等二十四箇ノ鋸機ヲ裝置シ自由自在ニ製材ヲ爲シ、一日ノ製材能力ハ二百二十二立米ヲ有スルモ現時ハ五十立米見當ニテ一箇年ノ製材量ハ資材(原木)ニ於テ一萬四千立米(五萬石)ナルガ、是ヨリ製材品約九千八百立米(七〇%)ヲ得ラル、見込ナリ、工場ニ於テ挽キ割リタル製品ハ仕譯室ニ運バレ一定ノ規格ニヨリ仕譯シ、商標記號ヲ附シ、上家內ニ保存シ、逐次市場ニ搬出ス、尙工場ニ於ケル現在ノ製材資料ハ概ネ並下材ニシテ上中材ハ丸太賣トシテ處分セラル、從テ製品ニモ上等ノモノ尠シ、而シテ製品ノ大部分ハ島內ノ需要ニ充テラレ其ノ製品ノ種類ハ大體ニ於テ大角材五分、小割角材五割五分、小割板類四割ノ割合ナリ、

キヲ廣レ、四十一年一月遂ニ事業ノ中止ヲ發表スルニ至リタリ。茲ニ於テ總督府ハ愈々官營ノ必要ヲ認メ、第二十五議會ニ其ノ豫算ヲ提出セシモ調査不充分ノ故ヲ以テ否決トナリ、更ニ二十六議會ニ之ガ修正案ヲ提出セリ、卽チ藤田組補償金百二十萬圓創業費三百七十萬圓計四百九十萬圓トシテ豫算ヲ可決セラレ、茲ニ初メテ官業案成リ、四十三年四月十六日阿里山作業所官制ノ發布ヲ見ルニ至レリ、爾來各方面ノ施設着々進行シ大正元年末ニハ嘉義二萬平間六六、六料ノ鐵道工事完成ヲ遂ゲ斫伐事業ノ實行ニ着手セリ當時藤田組ノ調査ニ依ル森林ノ內容ハ概ネ次ノ如シ（勿論今日ノ阿里山森林ノ全部ヲ包含セルモノニアラズ）

面積一千百陌蓄積針葉樹三百萬立米、濶葉樹三百十萬立米合計六百十萬立米ノ多キニ達シテ居ル、尙又藤田組ヨリ承繼後ニ於ケル鐵道其ノ他諸施設ニ要シタル創業費ヲ揭クレバ

年度別 ＼ 科目別	阿里山森林經營費	阿里山作業所補充費	災害費	計	記事
明治四十三年度	一、三二七、四一二・一〇	—	—	一、三二七、四一二・一〇	
同　四十四年度	一、九七五、九五五・二〇	—	二、四九八、八四〇・〇五〇	二、三三五、八五五・三〇	
同　四十五年度	一、九〇三、五八七・七五〇	一、九一〇、八八〇・〇〇〇	三〇、九一〇、一九〇	一、九九九、七七七・七五〇	藤田組補償額ハ明治四十三年度各四十四年度合計百六十萬圓ナリ
大正元年度	九五三、五六六・〇〇〇	一、九八一、〇三六・一〇	二四五、五六八・八〇〇	五、九二七、一〇〇	同　二十萬圓ナリ
同　二年度					
合計	四、八九七、六三一・八〇〇	三、八九一、九〇・六〇〇	八〇〇、五四四・八〇〇	六、〇八七、五二八・二〇〇	

三、阿里山ノ斫伐事業

阿里山森林ハ本邦ニ於テ、他ニ類例ナキ長大ノ樹木甚ダ多キガ爲メ之ガ伐採搬出ニ當リ、我邦在來ノ方法ノミニテハ頗ル困難ヲ感ズルヲ以テ、之等大材ノ斫伐ヲ行ヒツヽアル米國西部海岸地方ノ施設ヲ調査シ之ヲ我國在來ノ方法ト比較研究シ其ノ兩者ノ長所ヲ採リテ設計セラレタルモノ卽チ現在ノ設備ナルガ故ニ從テ集材、運材、貯木、製材等ノ各作業ニ於ケル機械類モ當時ハ多ク米國製品ヲ使用シタル有樣ナリ、尙阿里山ハ大正元年伐木開始以來昭和五年度末ニ至ル間ニ伐採セラレタル面積ハ二千五百二十五陌ニ及ビ其ノ材積ハ實ニ百七十二萬立米ニ達シ居レリ。

（イ）伐木

阿里山材ハ一般ニ長大ニシテ、其ノ胸高直徑三米ヲ越ユルモノ亦尠カラズト雖モ、伐採ニハ總テ人力ヲ用ヒ伐倒シタルモノハ其ノ材質ニ依リ一定ノ長サニ玉切リ造材ヲ爲シ、尙一本ノ木材ニシテ五噸以上ニ及ブモノハ集材機械ノ能力關係上之ヲ二ツ乃至四ツ割ニ胴割（鋸通シ）ヲ施シ居レリ、卽チ伐木作業トハ此ノ間ノ仕事ヲ指スモノニシテ從業員ハ主ニ內地人ヲ使役シ賃金ハ出來高拂（功程拂）ノ制ヲ採レリ、因ニ樹種ニ依リ多少ノ相違有ルハ免レザルモ大體ニ於テ立木ヨリ約六割ノ造材丸太ヲ得ラル、割合ナリ。

（ロ）集材

本森林ノ如キ長大木ノ集材操作ハ到抵人力ノミニテハ不可能ナルニ依リ、總テ機械ヲ使用シ居レリ、現在此ノ集材機械七臺ヲ有シ之ヲ林內各所ニ配置シ集材作業ヲ行ヒツヽアリ。

機械ハ架空鐵索ヲ利用セルモノニシテ**スキツダー**（集材機）ト稱シ、蒸氣力ニ依リ之ヲ運轉シ、林內ヘ造材ノ儘散在セル木材ヲ一定ノ場所ニ蒐集スルト共ニ、貨車ノ積込ヲモ行フモノニシテ、一回ノ牽引量ハ丸太材六立米內外ナリ、尙此ノ集材機ニ依ル時ハ機械ノ位置ヲ中心トシ半徑約七五〇米ノ圈內ニ在ル造材丸太ハ容易ニ集材シ得ベク、又息木、中繼等ノ方法ニ依ル時ハ一、五〇〇米ノ遠距離ニモ及ブ事ヲ得ベシ集材機ノ能力ハ集材ニ於テハ、五〇乃至八〇馬力積込ニ於テハ、二〇乃至五〇馬力ヲ有シ、一臺一日八〇立米ノ丸太材ヲ集材シ得ル能率アリ、從業員ハ一臺ニ對シ十八乃至二十名ヲ要シ、內地人共同ニテ作業ニ從事セシメ、賃金支拂ハ伐木ト同樣功程拂ナリ、

（ハ）運材（鐵道）

木材ノ搬出ハ阿里山發見以來幾多ノ專門家ニ依リ攻究セラレタルガ、木材利用ノ集約ト輸送力ノ强大竝ニ、事業ノ安全トヲ期スル爲メニハ、專ラ鐵道ニ依ルノ外良法ナキニ依リ、明治四十三年藤田組ニ於テ計劃起工シタルモノヲ引受ケ官營トシ事業ヲ進メ、大正元年十二月嘉義二萬平間六十六粁ノ鐵道開通ヲ遂ゲ、爾來事業ノ進捗ニ伴ヒ、漸次延長シ昭和五年度末ニ於テハ、百粁ヲ越ユルニ至レリ、本鐵道ハ軌間七六〇粍ノ狹軌式ニシテ、嘉義竹崎間一四粁ハ平坦線ナルモ、竹崎以東ハ所謂山線ニ屬シ隧道、橋梁頗ル多ク隧道ハ阿里山迄ノ間ニ六十二箇所アリテ、此ノ延長九、五粁ニ及ベリ、線路ハ殆ンド勾配線ニシテ最急勾配十六分ノ一最小曲線半徑三十米ヲ示ス處アリ、本線ノ如キ長距離ニ亘ル急勾配且ツ、鋭曲線ヲ有スル鐵道ハ其ノ例極メテ稀ナルヲ以テ、之ガ運行上適當ナル機關車ヲ選定シ米國**ライマ**會社製「**シエー**型」ヲ採用スルニ至レリ、貨車ハ**ボギー**式運材車ヲ使用ス。

機關車ハ平地運轉ノモノト異リ「**シリンダー**」片側ニ三箇連立シ下部ニ取付ケラレシ「**ラインシヤフト**」ノ齒車ト左側車輪ノ齒車ト相互ニ嚙ミ合フ裝置ニシテ「**ピストン**」ノ行動ハ「**シヤフト**」ノ齒車ニ依ツテ車輪ニ傳ヘラレ運轉ス、尙各車輪ニハ空氣制動機、完備シ絕對安全ナリ現在機關車二七、客車一一、貨車二二〇輛ヲ有セリ、本鐵道開通以來昭和五年度末ニ至ル間ノ搬出木材ハ、八十萬六百五十三

内地市場ニ於テモ頗ル有利ノ地歩ヲ占ム、現ニ有名ナル明治神宮ノ大華表竝ニ橿原神宮ノ御華表モ倶ニ其ノ全部阿里山材ヲ以テ建立セラレ、其ノ他桃山御陵、乃木神社、筥崎八幡宮乃至ハ東福寺等ノ御造營ヲ始メトシテ、今ヤ各地ノ神社佛閣等壯麗ナル建築ハ普ク供給ノ依賴ヲ受ケ居ル狀況ニ在リ、又扁柏ハ「**チーク**」材ノ代用品トシテ造船材ニ賞用セラレ、現ニ帝國艦隊ノ精鋭ナル軍艦長門ノ甲板ハ全部阿里山扁柏ヲ採用セラレシヲ始メ、帝國軍艦用材トシテ多大ノ需要アリ。如斯阿里山材ノ眞價ハ早クヨリ一般ニ認メラレ、爲メニ年來ノ成績亦順調ナリ卽チ創業以來竝ニ昭和五年度中ノ木材處分高ヲ示セバ次ノ如シ。

自大正元年至昭和五年　處分調

區分 ＼ 內臺別	丸太及製品 材積	丸太及製品 金額	立木及屑材 金額	計 金額
內臺別	立米	円	円	円
內地	四、六八三・五五	一九七、四九一・六	五一、八〇五・五	二〇、二二二、九七一
島內	一、四二一・四〇	七七、四六九・九六〇	—	七七、四六九・九六〇
計	六、一〇五・九五	二七、九七四・九三一	五一、八〇五・五	二七、九七四・九三一

昭和五年度處分調

區分 ＼ 內臺別	丸太 材積	丸太 金額	製品 材積	製品 金額	立木及屑木 金額	計 金額
內臺別	立米	円	立米	円	円	円
內地	一、三七八・一	三九八、二八三	一六、一四四	六、九五三・六	四六七、四四	一〇、六四四、五八三
島內	四、六九三	二、〇二二・四	一、三五一	八六七・三	—	三四六、九九八
計	一、八四五・四	六五八、五四七	一七、三九五	七、〇二八・八	四六七、四四	一四、一五八・二

五、阿里山事業上ノ收支

大正三年度ヨリ昭和五年度ニ至ル間ニ於テ阿里山斫伐事業經營ノ爲メ要シタル經費總額ハ二一、一五五、六四七圓ニシテ、收入ハ二三〇、〇二二、四七三圓ニ達シ、實ニ八、八六六、八二六圓ノ收益ヲ擧ゲタリ尙昭和五年度中ノ經費トシテ要シタル支出ハ一、〇二三、七八〇圓ナルガ、同年中ノ木材代金及其ノ他ノ收入ハ一、六七〇、二七一圓ナルヲ以テ、收益六四六、四九一圓ヲ算シタリ。

然レ共支出中ニハ造林ニ要シタル經費ヲ除カレアルニ依リ、阿里山斫伐跡地ノ植林ト阿里山事業繼續ノ爲メ造林スル沿道造林トニ要シタル經費約七〇、〇〇〇圓ヲ收益中ヨリ差引クモ尙且ツ五十七萬六千餘圓ニ達セリ。

六、阿里山事業ノ施業ト造林事業

阿里山事業ハ總面積一萬七千六百二十六陌（ヘクタール）利用保護ノ爲メ設定セラレタル沿道造林地ヲ含ム）ノ地域ヲ領シ、昭和五年度末ニ於テ今ヨ百九萬立米ノ針葉樹ト九十四萬立米ノ濶葉樹ヲ包藏セル原生林殘存シ、今後一箇年丸太材三萬七千五百三十立米山地加工材二千立米ヲ生產スル豫定ナルヲ以テ、此ノ年伐量ヨリ推惟セバ原生林ハ今後十一年ヲ維持シ得ル林力ヲ有ス、更ニ阿里山ト共ニ其ノ利用ヲ計劃セラル、東京帝大ノ演習林及指定外國有林ヲ引續キ伐採スレバ尙六箇年ヲ維持シ得ルノミナラズ、今後造林ニ依リテ伐採跡地ノ更新ヲ行ヒツヽアルヲ以テ、永久ニ其ノ利用ヲ保續シ得ベシ。

斫伐跡地ニ對シテハ植伐竝行ヲ豫定シ、最近ニ於テハ年々百乃至百五十陌（ヘクタール）ノ杉扁柏ノ造林ヲナスト共ニ、同一運材系統ニ屬スル鐵道沿線（主トシテ交力坪以東）暖帶地域ノ林木生育旺盛ナル箇所ニ對シテハ、年植百二十陌（ヘクタール）ノ杉及廣葉杉ノ造林ヲ爲シ以テ阿里山事業ノ恒久的保續計劃ニヨル造林ヲ實施シツヽアリ、其ノ輪伐期ハ概ネ阿里山造林地ニ在リテハ、杉四十年乃至五十年扁柏九十年乃至百年ノ二段喬林鐵道沿線ハ杉、廣葉杉概ネ二十五年輪伐ノ皆伐喬林トス、而シテ昭和五年度末迄ノ造林濟面積ハ阿里山ニ於テ、一千三百陌（ヘクタール）沿道又一千四百陌（ヘクタール）ニ達シ居レリ。

七、阿里山上ニ於ケル施設

（一）阿里山神社

阿里山神社ハ大正八年二月ノ造營ニシテ、同年四月二十五日鎭座祭ヲ擧行シ、爾來每年四月二十五日及十一月三日ヲ例祭日ト定メ祭典ヲ行フ氏子ハ阿里山在住者竝嘉義以東ニ於ケル營林所從業員ノ全部ナリ、神域ハ海拔二千八十二米ノ高地ニ在リテ、三萬平米ヲ有シ樹齡三千年ヲ超ユル神木ヲ初メ其ノ他ノ老樹蒼蒼トシテ、天ヲ覆ヒ晝尙暗ク實ニ壯嚴ヲ極ム祭神ハ左ノ八柱ヲ合祀セリ。

大山祇命　香具津智命
神津比古命　瑞葉能命
大國魂命　大國主命
少彥名命　北白川能久親王命

（二）阿里山寺

曹洞宗阿里山寺ハ阿里山神社ノ西ニ隣接シ、境內一萬五千百十四平米ヲ有シ堂宇ハ大正八年二月建立セラレタルモ、同十二年遂ニ炎上ノ厄ニ遭ヒ翌十四年多數ノ經費ヲ投シジ現在ノ寺院ヲ再建セリ、佛

立米ニ達シ居レリ、又木材輸送ノ傍ラ、嘉義、竹崎間十四粁ハ一般貨客ノ運輸營業ヲ兼ネ、更ニ竹崎以東ノ幹線(山線)及林内線ノ一部ニ於テモ一般貨物ノ不定時運輸並ニ旅客ノ便乘扱ヲ爲シツヽアリ、尙上リ列車ノ際ハ客車ヲ機關車ノ前部ニ連結スル爲メ恰モ電車ニ乘リタル感アリテ、實ニ本邦唯一ノ登山鐵道トシテ洽ク人口ニ膾炙セラル、列車ノ運轉速度ハ上リ十三粁(八哩)下リ一四、五粁(九哩)ニシテ一日四回乃至五回ヲ運轉シ、内一回ハ便乘列車トシテ旅客ノ便乘ヲ許可シツヽアリ、近年ハ阿里山及新高方面視察ノ爲メ登山スル者頓ニ增加シ、昭和五年中ニハ六千餘名ノ多キニ達シ、尙五年度ニ於ケル鐵道營業收入モ十三萬五千圓ヲ算シ居レリ

(二) 貯木

阿里山鐵道ニ依リ搬出セラレタル**丸太**ハ嘉義貯木場ニ到着ト同時ニ**夫々檢尺ヲ施**シ、更ニ材質ニ依リ品等(格付)區分ヲ爲シ相當ノ記號ヲ打チ込ミ愈々商品トシテ貯木場ニ保管ス。

貯木場ニ於ケル貯材ノ方法トシテハ、水中ニ貯フルヲ普通トスルモ、水底ニ沈ム材木ハ之ヲ陸上ニ堆積シ必要ニ應ジ搬出ス、而シテ貯木池ハ其ノ貯水面積五萬四千三百十四平米ヲ算シ、二萬立米ノ貯材能力アリ、尙陸上ハ一萬一千四十一平米アリテ、一萬四千四百立米ヲ貯材シ得ベシ、設備トシテハ極メテ便利ナル移動式鐵索卷立機ヲ使用シ居レルガ、此ノ卷立機ハ左右ニ約百五十八米移動可能ノ二箇ノ對立セル櫓ヨリ成リ、櫓ノ徑間九十六米ニ及ビ、荷重最大十六噸迄ノ材木ヲ自由ニ操縱シ得ル裝置ナリ、又別ニ蒸氣起重機(三噸)ノ作業ニ依ツテ、山地ヨリ到着貨車ノ丸太ヲ池中ニ容易ニ荷卸シ得ル裝置アリ。

(ホ) 製材

製材ニ就テハ阿里山及嘉義ノ二箇所ニ工場ヲ設置シ製材シツヽアリ、阿里山工場ハ主トシテ所内工事用材ノ供給及山地廢材ノ利用ヲ目的トスルモノニテ、其設備モ僅カニ鋸機三臺ノ小規模ニ過ギズ、從テ一箇年ノ資料材積モ三千九百立米見當ナリ。

嘉義製材工場ハ其ノ當初阿里山ヨリ搬出セラル、長大材ノ總テヲ此ノ工場ニテ製材スル事ニ計劃セラレタル爲メ、規模モ頗ル宏大ニシテ、工場敷地ハ七萬二千五百平米ニ及ビ、建物ハ延七千六百平米ヲ有スル一部三階、他ハ全部二階建ノ總鐵筋**コンクリート**造ニシテ、構内ハ動力室、製材室、仕譯室、ニ分ル、動力ハ自家發電ニヨリ其ノ最高能力八百**キロワット**ノ裝置ヲ有スルモ最近製材作業ノ方針ヲ變更シタル結果動力費ノ採算上他ヨリ供給ヲ受クルヲ有利トシ、昭和六年九月一日以來發電ヲ中止シ嘉義電燈株式會社ヨリ供給ヲ受ケ居レリ。

製材室ニハ縱挽帶鋸、長鋸、圓鋸等二十四箇ノ鋸機ヲ裝置シ自由自在ニ製材ヲ爲シ、一日ノ製材能力ハ二百二十二立米ヲ有スルモ現時ハ五十立米見當ニテ一箇年ノ製材量ハ資材(原木)ニ於テ一萬四千立米(五萬石)ナルガ、是ヨリ製材品約九千八百立米(七〇%)ヲ得ラル、見込ナリ、工場ニ於テ挽キ割リタル製品ハ仕譯室ニ運バレ一定ノ規格ニヨリ仕譯シ、商標記號ヲ附シ、上家内ニ保存シ、逐次市場ニ搬出ス、尙工場ニ於ケル現在ノ製材資料ハ概ネ並下材ニシテ上中材ハ丸太賣トシテ處分セラル、從テ製品ニモ上等ノモノ尠シ、而シテ製品ノ大部分ハ島内ノ需要ニ充テラレ其ノ製品ノ種類ハ大體ニ於テ大角材五分、小割角材五割五分、小割板類四割ノ割合ナリ、

四、阿里山材ノ販賣

木材ノ販賣ハ特賣ノ方法ヲ採用シ常ニ顧客ノ利便ヲ圖ルト共ニ、市況ノ歸趨ヲ胴察シテ需要ノ喚起ヲ計リ、阿里山材ノ聲價向上ニ專念シツヽアリ、樹種ハ扁柏紅檜ヲ主トシテ亞杉、栂、松、之ニ亞グ何レモ丸太材又ハ製材品ト爲シ販賣シ居レルガ、濶葉樹ニ在リテハ現今販路尠ク僅カニ鐵道部ニ於テ客車ノ材料トシテ使用セラレ居ルニ過ギズ、然レ共扁柏紅檜ノ如キハ其ノ材質ニ著シキ特長ヲ有シ、殊ニ長大ナル美材ノ點ニ至リテハ、遠ク及ブモノナキヲ以テ、本島内ハ勿論内地市場ニ於テモ頗ル有利ノ地歩ヲ占ム、現ニ有名ナル明治神宮ノ大華表竝ニ橿原神宮ノ御華表モ倶ニ其ノ全部阿里山材ヲ以テ建立セラレ、其ノ他桃山御陵、乃木神社、筥崎八幡宮乃至ハ東福寺等ノ御造營ヲ始メトシテ、今ヤ各地ノ神社佛閣等壯麗ナル建築ハ普ク供給ノ依賴ヲ受ケ居ル狀況ニ在リ、又扁柏ハ「**チーク**」材ノ代用品トシテ造船材ニ賞用セラレ、現ニ帝國艦隊ノ精鋭ナル軍艦長門ノ甲板ハ全部阿里山扁柏ヲ採用セラレシヲ始メ、帝國軍艦用材トシテ多大ノ需要アリ。如斯阿里山材ノ眞價ハ早クヨリ一般ニ認メラレ、爲メニ年來ノ成績亦順調ナリ即チ創業以來竝ニ昭和五年度中ノ木材處分高ヲ示セバ次ノ如シ。

自大正元年
至昭和五年　處分調

區分	丸太及製品 材積	丸太及製品 金額	立木及屑材 金額	計 金額
内地	立米 四六八三五	円 一九七四九一六	円 五二八〇五五	円 二〇二三二九七一
内地	一四二一四〇	七七四八九六〇	—	七七四八九六〇
計	六二〇九七五	二七四六二八七六	五二八〇五五	二七九七九九九二一

昭和五年度處分調

區分	丸太 材積	丸太 金額	製品 金額	立木及屑木 金額	計 金額
内地					
内地					
計					

九、阿里山ニ於ケル天然物ト其ノ保存

(一) 森林地帶ニ於ケル鳥獸

森林地帶ニハ動物多ク此ノ地方ヨリ初メテ學界ニ紹介セラレタルモノ亦尠カラズ、蝶ニハ「**アリサン、ツバメタテ**」蛇(一般ニハ少シ)ニハ「**アリサンハブ**」ノ如キ此ノ例ナリ鳥類、ニハ「**アリサンチメドリ**」「**アリサンミソサザイ**」「**アリサンヒタキ**」「**アリサンウソ**」等此ノ山ニテ始メテ發見セラレシ珍種類ニシテ殊ニ「**ハナドリ**」、「**ミカドキジ**」等ハ最モ有名ナリ、獸類ニ至リテハ、鹿、猪、羚羊、熊、等其ノ主ナルモノトス。

(二) 神木

阿里山神木ハ海拔二千百三十五米神木驛(第**三ス井ツチ**)構内ニ在リ樹種紅檜、樹齡三千年、樹高五二、七米、枝下一三米、地上周圍三四米、目通周圍一九米、材積五百立米ニシテ我國第四位ノ巨木ナリ、此ノ神木ハ最初太郎木ト稱シ居リシガ、大正元年末鐵道開地スルニ至リ始メテ神木ト命名シ、其ノ周圍ニ注連繩ヲ張リ保存木トシテ今日ニ及ベリ。

(三) 萬歲檜

像ハ曹洞宗管長日置默仙禪師ガ嘗テ暹羅ニ渡ラレシ時同國王ヨリ親シク贈ラレタル釋尊ノ偶像ニシテ、大正四年一月同禪師阿里山巡錫ノ砌此地ガ印度**ダージリン**ノ聖地ニ酷似セルトテ、此ノ地ノ鎭護トシテ寄進セラレシモノナルガ、靈驗アラタカナリト歸依スルモノ多シ。

(三) 阿里山小學校

阿里山小學校ハ大正三年四月一日ノ開校ニシテ、尋常科及高等科ヲ有シ、現在生徒百五十三名ニ達ス、而シテ内六名ハ本島人ノ共學生ナルガ尙此外十六名ノ本島人聽講生ヲ通學セシメ居レリ、敷地ハ阿里山神社ノ境内ニ接シ海拔二千八十米ノ高地ニシテ、本邦中最高地ノ小學校ナリト謂フヲ得ベシ、本校ハ兒童ノ保健竝ニ學業ノ成績亦頗ル優良ナリ。

(四) 郵便局

阿里山便郵局ハ明治四十四年ノ開設ニシテ、郵便事務ノミヲ取扱來リシモ、近時阿里山ノ人口ハ昔日ノ比ニ非ズ、加フルニ一般登山客ノ增加著シキ爲メ、電信事務ノ取扱ナキヲ不便トシ、昭和六年四月一日以來營林所ノ電話線ヲ利用シ電信電話双信法ヲ採リ電報ノ取扱ヲ開始スルニ至レリ。

(五) 林間學校

阿里山林間學校ハ阿里山驛ノ西方約五〇〇米ノ森林中ニ二百八十七平米ノ敷地ヲトシ、昭和二年十一月工費一萬餘圓ヲ投ジ二百八十七平米ノ校舍ヲ建設シ、夏季林間講習會又ハ修養會等多數ノ集會ニ利用セラルヽノ外、諸團體或ハ學校生徒ノ登山ノ際之ガ宿泊所ニ充ツル事アリ、現在五十名程ヲ收容シ得ル設備アリテ一般ノ便宜ヲ圖リ居レリ。

(六) 阿里山發電所

發電所ハ十字路驛ノ東南三粁ニ海拔六百米ノ地、曾文溪ノ上流タル長谷川溪ノ左岸ニ位シ、水力發電ニシテ昭和四年三月末ヨリ之ガ運轉ヲ開始セリ通水量ハ九箇落差五十八米「**フランシスタービン**」ニ依リ其出力百**キロワット**ナリ、晝間ノ電力ハ阿里山製材工場及修理工場等ノ動力ニ使用シ、夜間ハ二萬平及阿里山一圓ノ點燈用トナセリ。

八、阿里山ノ氣象

冬ノ阿里山ハ鹿兒島縣地方ニ髣髴シ、夏ハ北海道ノ北部ニ酷似ス、雨期ハ臺灣南部ト同ジク盛夏六、七、八ノ三箇月ヲ中心トシテ、降雨量最モ多シ、然レ共午前ハ概ネ晴天ニシテ午後ニ至レバ、短時間ニ驟雨的ニ來ルヲ特有トス、永年營林所ニ於テ氣象ヲ觀測シ、之ヲ臺北測候所ヘ通報シ居リタルモ、高山ニ於ケル氣象觀測ノ要ヲ認メラレ、督府ニ於テ萬歲山ニ高山觀象所ヲ建設シ、高山觀象ヲナスコト、ナレリ。

尙十箇年ノ平均氣象ヲ示セバ左表ノ如シ

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
最高氣溫	四四、八	四六、九	四九、三	五四、〇	五八、八	五九、〇	五九、九	六〇、二	五九、二	五五、六	五三、一	四七、五	五三、八
最低氣溫	五八、七	五八、七	五八、九	五七、七	五八、七	五八、〇	五八、〇	五八、三	五八、六	五八、六	五八、八	五八、七	五八、四
平均氣溫	五八、五	一〇九、七	一三、七	二〇、一	六三、一	六四、七	七〇、三	七三、四	四九、四	一四、八	六六、四	五七、六	三九、八
降雨日數	七	九	一〇	一三	一三	一九	二三	二四	一八	一三	八	七	一六九
降霧日數	六	三	三	二	一	—	—	—	—	一	四	九	二六

記事　氣溫ハ午前十時及午後二時ノ二回測定華氏ヲ以テ示ス平地氣壓七六〇耗

ラレ、其ノ他桃山御陵、乃木神社、筥崎八幡宮乃至ハ東福寺等ノ御造營ヲ始メトシテ、今ヤ各地ノ神社佛閣等壯麗ナル建築ハ普ク供給ノ依頼ヲ受ケ居ル狀況ニ在リ、又扇柏ハ「**チーク**」材ノ代用品トシテ造船材ニ賞用セラレ、現ニ帝國艦隊ノ精鋭ナル軍艦長門ノ甲板ハ全部阿里山扇柏ヲ採用セラレシヲ始メ、帝國軍艦用材トシテ多大ノ需要アリ。如斯阿里山材ノ眞價ハ早クヨリ一般ニ認メラレ、爲メニ年來ノ成績亦順調ナリ即チ創業以來亞ニ昭和五年度中ノ木材處分高ヲ示セバ次ノ如シ。

自大正元年
至昭和五年　**處分調**

區分 ＼ 產別	丸太及製品 材積	丸太及製品 金額	立木及屑材 金額	計 金額
島内	四六、八八三、五立米	一九七、四九一、六円	五一、八〇五、五円	二〇一、三二七、一円
島内計	一四二、一四〇	七七、四八九、九八〇	—	七七、四八九、九八〇
地内	六一〇、九七五	二七、四六一、八七六	五一、八〇五、五	二七、九七九、九三一

昭和五年度處分調

區分 ＼ 產別	丸太 材積	丸太 金額	製品 材積	製品 金額	立木及屑木 金額	計 金額
島内	一三七、一立米	三九、八二、三円	一六、一四四立米	六二、九五三、六円	四八、七四円	一〇、八四、五八三円
島内計	四、六九三	二、〇二、二四	一、二五一	八、六七三	—	三四、六、九九八
地内	一八、四五四	六五、八、五四七	一七、三九五	七六、二八八	四、六七四	一四二、五八二

五、阿里山事業上ノ收支

大正三年度ヨリ昭和五年度ニ至ル間ニ於テ阿里山斫伐事業經營ノ爲メ要シタル經費總額ハ二一、一五五、六四七圓ニシテ、收入ハ三〇、〇二二、四七三圓ニ達シ、實ニ八、八六六、八二六圓ノ收益ヲ擧ゲタリ尙昭和五年度中ノ經費トシテ要シタル支出ハ一、〇二三、七八〇圓ナルガ、同年中ノ木材代金及其ノ他ノ收入ハ一、六七〇、二七一圓ナルヲ以テ、收益六四六、四九一圓ヲ算シタリ。

然レ共支出中ニハ造林ニ要シタル經費ヲ除カレアルニ依リ、阿里山斫伐跡地ノ植林ト阿里山事業繼續ノ爲メ造林スル沿道造林トニ要シタル經費約七〇、〇〇〇圓ヲ收益中ヨリ差引クモ尙且ツ五十七萬六千餘圓ニ達セリ。

六、阿里山事業ノ施業ト造林事業

阿里山事業ハ總面積一萬七千六百二十六陌（ヘクタール）（利用保護ノ爲メ設定セラレタル沿道造林地ヲ含ム）ノ地域ヲ領シ、昭和五年度末ニ於テ今ヨ百九萬立米ノ針葉樹ト九十四萬立米ノ濶葉樹ヲ包藏セル原生林殘存シ、今後一箇年九太材三萬七千五百三十立米山地加工材二千立米ヲ生產スル豫定ナルヲ以テ、此ノ年伐量ヨリ推惟セバ原生林ハ今後十一年ヲ維持シ得ル林力ヲ有ス、更ニ阿里山ト共ニ其ノ利用ヲ計劃セラル、東京帝大ノ演習林及指定外國有林ヲ引續キ伐採スレバ尙六箇年ヲ維持シ得ルノミナラズ、今後造林ニ依リテ伐採跡地ノ更新ヲ行ヒツヽアルヲ以テ、永久ニ其ノ利用ヲ保續シ得ベシ。

斫伐跡地ニ對シテハ植伐亞行ヲ豫定シ、最近ニ於テハ年々百乃至百五十陌（ヘクタール）ノ杉扁柏ノ造林ヲナスト共ニ、同一運材系統ニ屬スル鐵道沿線（主トシテ交力坪以東）暖帶地域ノ林木生育旺盛ナル箇所ニ對シテハ、年植百二十陌（ヘクタール）ノ杉及廣葉杉ノ造林ヲ爲シ以テ阿里山事業ノ恒久的保續計劃ニヨル造林ヲ實施シツヽアリ、其ノ輪伐期ハ概ネ阿里山造林地ニ在リテハ、杉四十年乃至五十年扁柏九十年乃至百年ノ二段喬林鐵道沿線ハ杉、廣葉杉概ネ二十五年輪伐ノ皆伐喬林トス、而シテ昭和五年度末迄ノ造林濟面積ハ阿里山ニ於テ、一千三百陌（ヘクタール）沿道又一千四百陌（ヘクタール）ニ達シ居レリ。

七、阿里山上ニ於ケル施設

（一）阿里山神社

阿里山神社ハ大正八年二月ノ造營ニシテ、同年四月二十五日鎭座祭ヲ擧行シ、爾來每年四月二十五日及十一月三日ヲ例祭日ト定メ祭典ヲ行フ氏子ハ阿里山在住者亞嘉義以東ニ於ケル營林所從業員ノ全部ナリ、神域ハ海拔二千八十二米ノ高地ニ在リテ、三萬平米ヲ有シ樹齡三千年ヲ超ユル神木ヲ初メ其ノ他ノ老樹蒼蒼トシテ、天ヲ覆ヒ晝尙暗ク實ニ壯嚴ヲ極ム祭神ハ左ノ八柱ヲ合祀セリ。

大山祇命　香具津智命
神津比古命　瑞葉能命
大國魂命　大國主命
少彦名命　北白川能久親王命

（二）阿里山寺

曹洞宗阿里山寺ハ阿里山神社ノ西ニ隣接シ、境内一萬五千百十四平米ヲ有シ堂宇ハ大正八年二月建立セラレタルモ、同十二年遂ニ炎上ノ厄ニ遭ヒ翌十四年多數ノ經費ヲ投シジ現在ノ寺院ヲ再建セリ、佛

一、新高登山

森林地帶ニハ動物多ク此ノ地方ヨリ初メテ學界ニ紹介セラレタルモノ亦尠カラズ、蝶ニハ「**アリサン、ツバメタテ**」蛇（一般ニハ少シ）ニハ「**アリサンハブ**」ノ如キ此ノ例ナリ鳥類、ニハ「**アリサンチメドリ**」「**アリサンミリササイ**」「**アリサンヒタキ**」「**アリサンウリ**」等此ノ山ニテ始メテ發見セラレシ珍種類ニシテ殊ニ「**ハナドリ**」、「**ミカドキジ**」等ハ最モ有名ナリ、獸類ニ至リテハ、鹿、猪、羚羊、熊、等其ノ主ナルモノトス。

（二）神木

阿里山神木ハ海拔二千百三十五米神木驛（第**三ス井ツチ**）構内ニ在リ樹種紅檜、樹齡三千年、樹高五二、七米、枝下一三米、地上周圍三四米、目通周圍一九米、材積五百立米ニシテ我國第四位ノ巨木ナリ、此ノ神木ハ最初太郎木ト稱シ居リシガ、大正元年末鐵道開通スルニ至リ始メテ神木ト命名シ、其ノ周圍ニ注連繩ヲ張リ保存木トシテ今日ニ及ベリ。

（三）萬歲檜

阿里山神社境内ニ在リ樹種紅檜樹齡千七百年、樹高四〇米、目通周圍一一米、材積百七十立米ナリ、此ノ樹ハ昭和二年十一月八日朝香宮鳩彥王殿下阿里山御登山ノ際命名セラレタルモノニシテ、其ノ周圍ニ木製玉垣ヲ繞ラシ紀念木トシテ保存ス。

（四）千人洞

眠月驛ヲ去ル北西一〇、三粁、石皷盤溪ノ水源ニシテ第三紀水成岩ヨリ成ル半圓形ノ天然洞穴ナリ、間口二四〇米、奥行七六米高サ二二米而シテ洞内ハ二萬平米ニ及ブ巨大ナルモノニシテ、從來蕃人出獵ノ際雨宿ニ使用シ來リタリシガ、現今當方面ノ伐木ヲ開始シタルヲ以テ其ノ附近ニ數軒ノ假小屋ヲ建テ柚夫、木挽等居住セシメ居レリ。

（五）貝ノ化石

阿里山河合溪及石皷盤溪區内ノ岩石中、或ハ溪内ニ露出セル巨岩中ヨリ屢々發見セラレ、中ニハ貝類ノ頗ル珍奇ナル化石ヲ見ル事アリ、故ニ幾千年前ハ海底ナリシモノナランカ、斯ル海拔二千二百餘米ノ高地ヨリ貝ノ化石ヲ發見セラルヽハ本邦ニ於テモ其ノ例尠シ。

（六）タイリントキソウ（一ッ葉蘭）

タイリントキソウハ一種ノ蘭科ニ屬シ多年生宿根ニシテ、高山植物中最モ珍重ノ種類ナリ、能ク河合溪、石皷盤溪、長谷川溪方面ノ斷崖又ハ岩石ノ苔蘚中ニ密生シ、每年三四月ノ候ニ美麗ナル五瓣ノ花ヲ開ク、現今高山植物トシテ一般ノ採取ヲ禁シ之ガ保護ヲ爲シ居レリ。

一〇、阿里山ノ五木

阿里山ニ於ケル針葉樹トシテハ所謂人口ニ膾炙セラル、扁柏ヲ始メトシ紅檜、亞杉、（臺灣杉）栂、姫子松（タカ根五葉）ノ五木ニシテ、阿里山森林ノ白眉ナリ、殊ニ最モ豐富ナルハ紅檜ト扁柏ニシテ、其ノ他ノ三種ハ總蓄積ノ一割餘ニ過ギズ、扁柏ハ其ノ質内地產ニ比シ幾分重ク、又多少赤味ヲ帶ブルモ、其ノ他ノ點ニ於テハ、毫モ遜庭ナク、尙二、三年間之ヲ水中ニ貯フル時ハ、木曾產ノモノニ伯仲ス、紅檜ハ質扁柏ニ酷似セルモ赤味ヲ帶ビ、又多少輕軟ナルヲ以テ、工作ニ容易ナリ、殊ニ其ノ柊板ニ在リテハ針葉樹中ノ第一位ト稱セラル、姫子松及栂ハ内地產ト大差ナキモ、亞杉ノ如キハ全然臺灣特有ノモノニシテ、其ノ美麗ナルモノハ深紫色ヲ呈シ一種謂フベカラザル雅致アリ。

一一、新高登山

新高山ハ明治三十年六月二十八日畏多クモ明治大帝ノ御命名アラセラレタル本邦第一ノ高峰ニシテ、臺中、臺南、高雄ノ三州ニ跨リ主山、東山、西山、南山、北山ノ五岳ヨリ成ル、而シテ新高主山ハ海拔三千三百五十米ニ達ス、近年登山熱勃興ト共ニ一般登山家頓ニ增加シ、尙最近ニ於テハ男女學生ノ登山スルモノ多キヲ加ヘタリ、登山口トシテハ嘉義市ヨリ登ルモノト、臺中州ノ二水ヨリ八通關ヲ經由スルモノトノ二筋ニ過ギザルガ、嘉義市ヨリノ登山ハ阿里山鐵道ヲ利用セラルヽニ依リ老幼ト雖モ、容易ニ登山シ得ルノ便利アリ、今阿里山經由新高登山ノ道程ヲ示セバ左ノ如シ、

新高登山案内

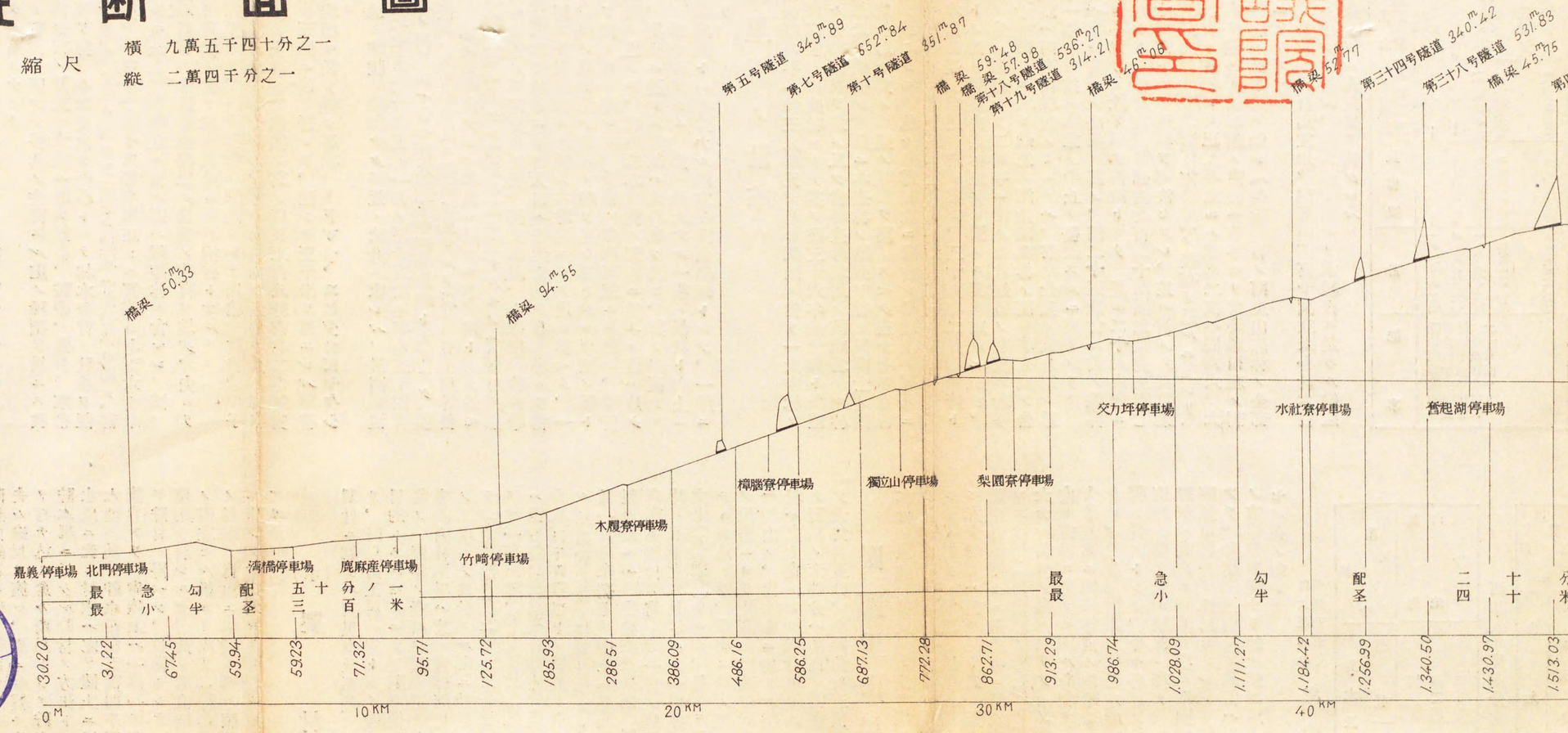
休泊所名	經由地	休泊所名	粁程	摘要
阿里山	—	タータカ	一三、九	阿里山迄汽電便所要時間約四時間
タータカ	新高西山	新高下	一一、七	所要時間五時間
新高下	新高主山	タータカ	一八、一	新高下ヨリ主山迄三二粁所要時間約六時間（頂上ニテ半時間眺望）
タータカ		阿里山	一三、九	所要時間約三時間

0800
1

阿里山鐵道

縱斷面圖

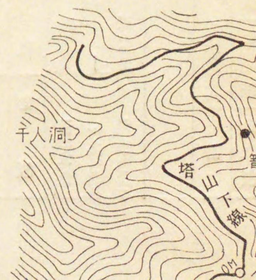
縮尺　横　九萬五千四十分之一
　　縱　二萬四千分之一



衆議院
12.10.20
圖書館

平面圖

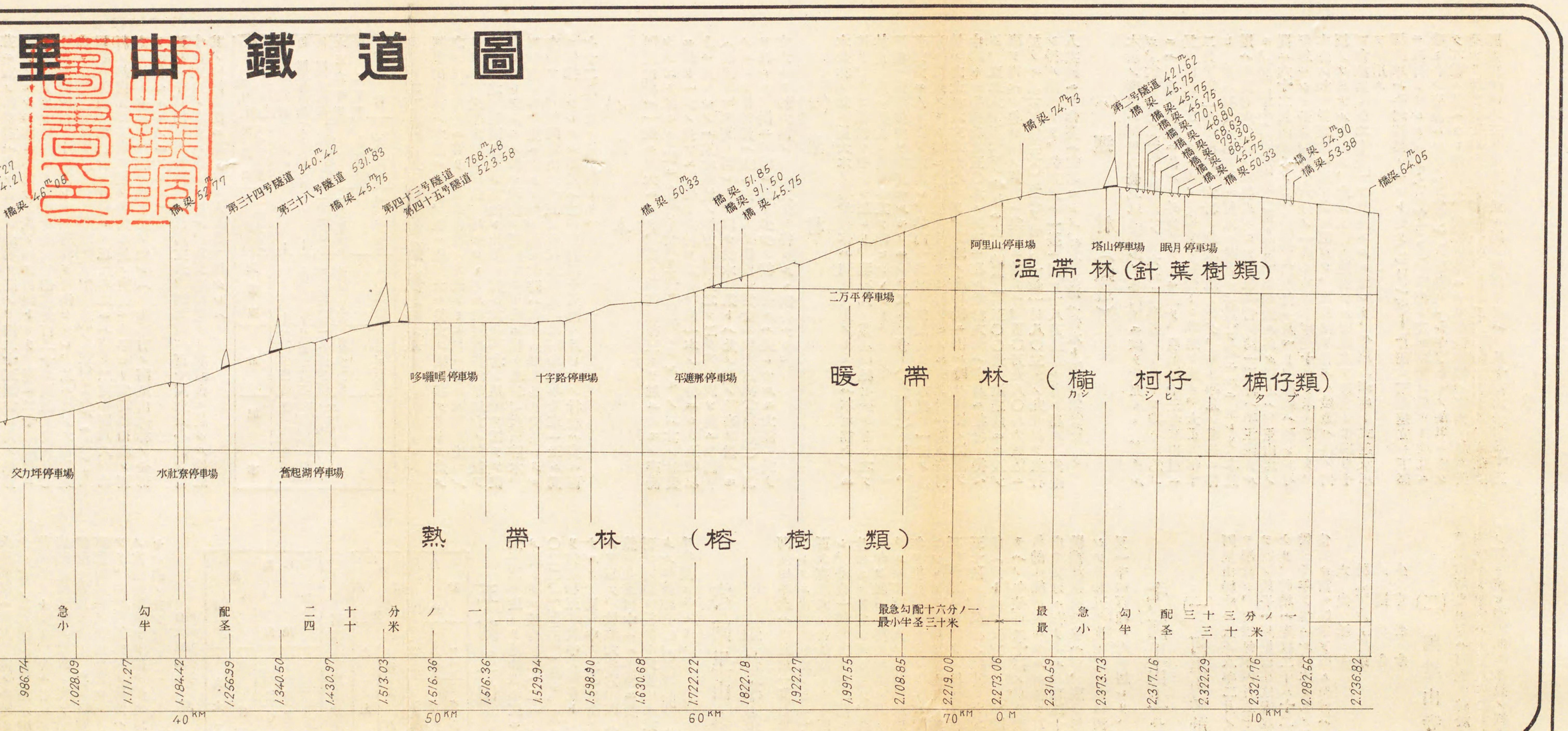
縮尺　一之分萬十



登山注意

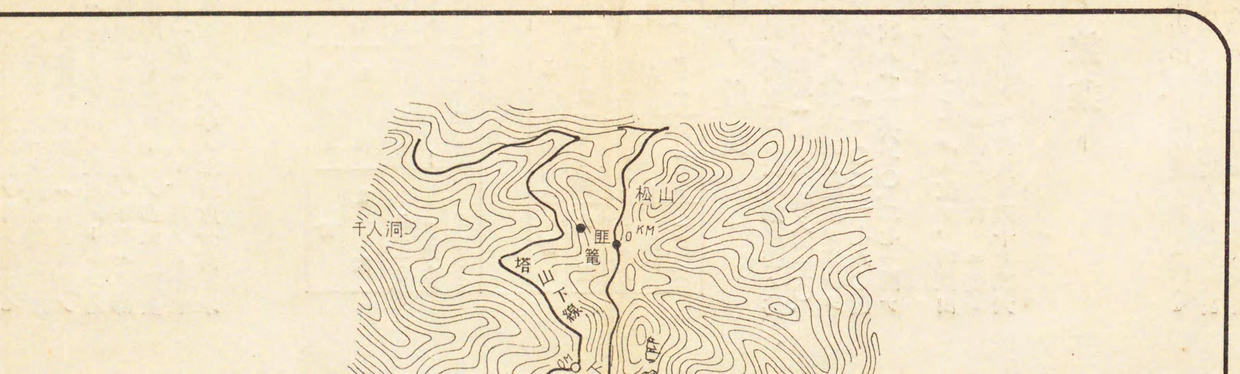
一、山上ハ平地ニ比シ氣候(華氏約二十度)寒冷ナルヲ以テ相當防寒ノ用意ヲナ

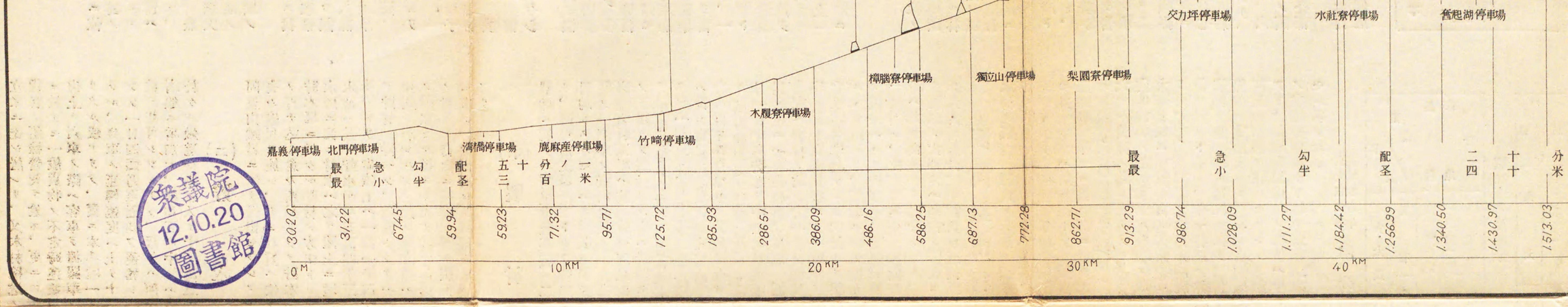
阿里山鐵道圖



獨立山スパイラル線圖

縮尺以一吋爲六鎖





衆議院
12.10.20
圖書館

平面圖

縮尺十萬分之一

熱帶林（榕樹類）

急小 勾半 配圣 二四 十十 分米 ノ一

最急勾配十六分ノ一
最小半圣三十米

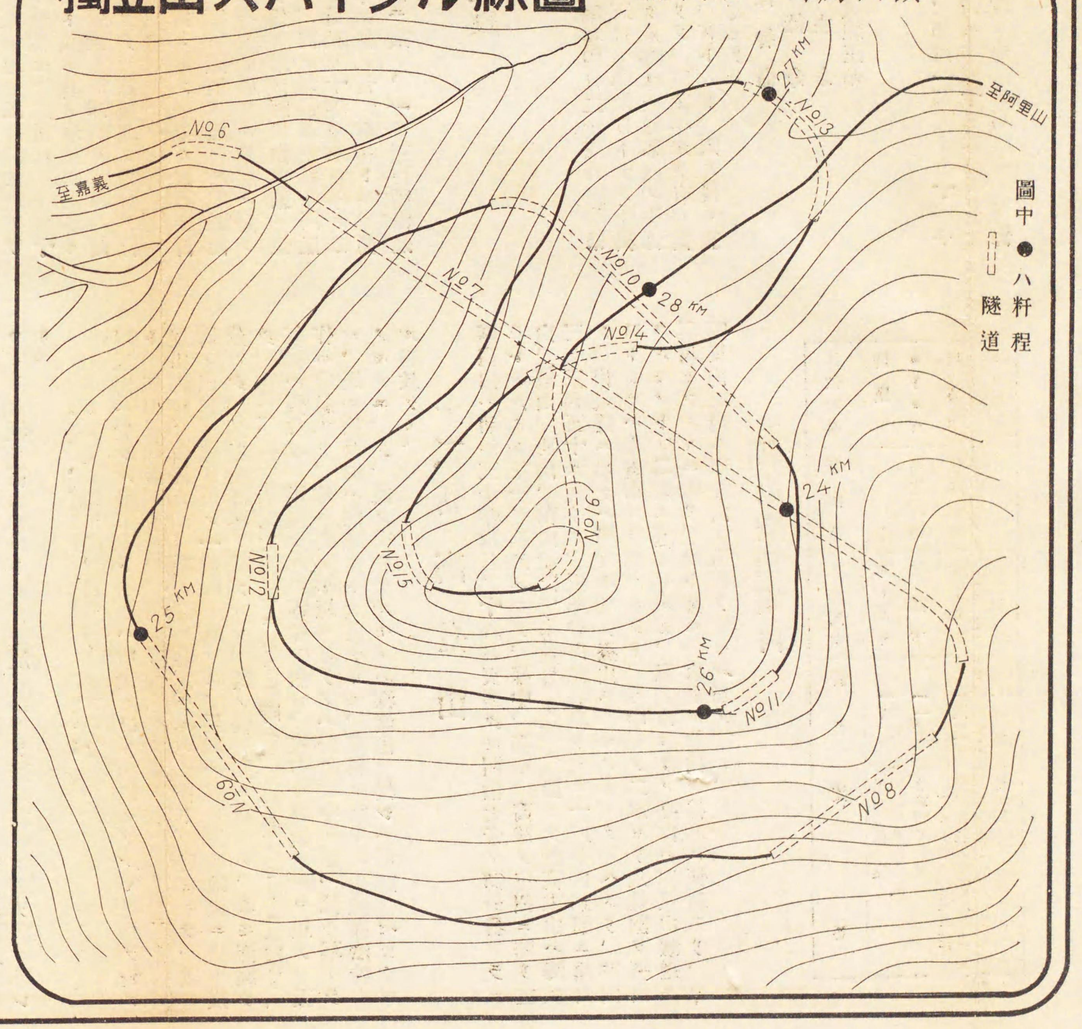
最急勾配三十三分ノ一
最小半圣三十米

986.74 1.028.09 1.111.27 1.184.42 1.256.99 1.340.50 1.430.97 1.513.03 1.516.36 1.516.36 1.529.94 1.598.90 1.630.68 1.722.22 1.822.18 1.922.27 1.997.55 2.108.85 2.219.00 2.273.06 2.310.59 2.373.73 2.317.16 2.322.29 2.321.76 2.282.56 2.236.82

40KM 50KM 60KM 70KM 0M 10KM

獨立山スパイラル線圖

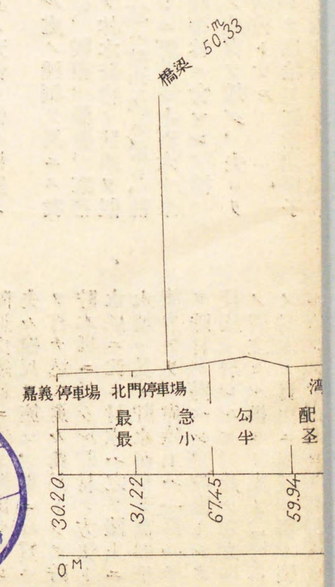
縮尺以一吋爲六鎖



0800
1

縦　断　面

縮尺　横　九萬五千四
　　縦　二萬四千分



衆議院
12.10.20
圖書館

登山注意

一、山上ハ平地ニ比シ氣候(華氏約二十度)寒冷ナルヲ以テ相當防寒ノ用意ヲナスコト。

二、阿里山及沿道ニ於ケル櫻、桃、躑躅、石楠、タイリントキソウ、其ノ他風致ヲ添フル草木類ヲ採取セザルコト。

三、煙草ノ吸殼又ハマツチノ摺殼等、餘燼ノ儘捨テザルコト。

四、汽車ノ運轉中ハ頭部又ハ手足等ヲ、車外ニ出サザルコト。